

HTML on WordによるWEBコンテンツ制作

出版物の原稿としてのWord文書、また社内に資料として存在するWord文書、
これらをダイレクトにHTMLに変換し、WEBコンテンツ化する。
そのような試みをHTML on Wordを使って検証しました。

■Wordデータを活かしたWEBコンテンツ化

HTML on Wordとは、Wordで作成したdocx形式のファイルをHTMLデータに変換するツールです。Word文書に設定された段落スタイルや見出し階層といった構造情報を活かしながら、WEBページとして利用可能なデータを生成できます。

アンテナハウス株式会社
『HTML on Word』紹介サイト



出版用途の原稿データだけでなく、企業内には仕様書・業務マニュアル・取扱説明書・Q&A・規定集など、さまざまなWord文書が蓄積されています。しかし実際には、担当者不在により更新されないまま放置されていたり、部署ごとにフォーマットが異なり横断的な活用が困難であったりと、データ資産として十分に活かせていないかもしれません。

当社では、こうした分散・属人化したWord文書の整理・再編集を引き受け、内容と構造を見直したうえで統一的なデータへと再構築します。そのうえでHTMLやXMLへ変換することで、単なる文書データから、検索・閲覧・再利用が可能なコンテンツ資産へと転換することが可能です。

■ワンソース・多メディア展開の実現

従来は、紙面用データとWEB用データを別々に制作・管理することが一般的でしたが、HTML on Wordを活用することで、ひとつのWord原稿を起点に複数の媒体へ展開することが可能になります。

たとえば、同一のWordデータから

- ・紙面用のPDF
- ・WEB掲載用のHTML
- ・システム連携を見据えたXML

といった異なる形式を生成することができ、用途ごとにデータを作り直す必要がなくなります。

この「ワンソース・多メディア展開」は、制作工程の効率化だけでなく、更新時の修正漏れ防止や内容の一貫性維持にもつながります。ひとつの原稿を修正すれば、すべての媒体に反映される運用は、長期的な情報管理において大きなメリットです。

■HTML化で反映される要素と注意点

Word上で設定した段落スタイルやアウトライン構造は、HTML化の際にも文書構造として反映されるため、見出しや階層関係が整理されたWEBコンテンツを生成できます。

一方で、Wordの見た目がそのまま再現されるわけではなく、罫線や囲み、複雑なレイアウトなどは再現性に差が出る場合があります。また、テキストボックスなど一部の要素は画像として出力される場合もあるため、WEBでの利用を前提とした設計が重要です。

そのため、変換後の活用を見据え、Word制作段階からスタイル設計や構造整理を行うことが、スムーズなWEB展開につながります。

■Web表示への最適化と再利用性

HTML on Wordで生成したHTMLは、文書の構造を保ったシンプルな状態で出力されるため、そのままでも内容は確認できますが、必要に応じてCSSやスクリプトを用いてデザインや動き、操作性を調整します。こうした工夫により、閲覧のしやすさや、目的の情報を探すための検索性が向上し、用途に適したWEBコンテンツとして仕上げることができます。

また、一度制作したコンテンツをフォーマットとして利用することで、同様の構造を持つ別の文書にも横展開しやすくなります。

HTML on Wordを活用することで、これまで活かしきれていなかったWord文書を、持続的に利用可能なコンテンツ資産へと転換することができます。

事例：解答解説のWEBコンテンツ化

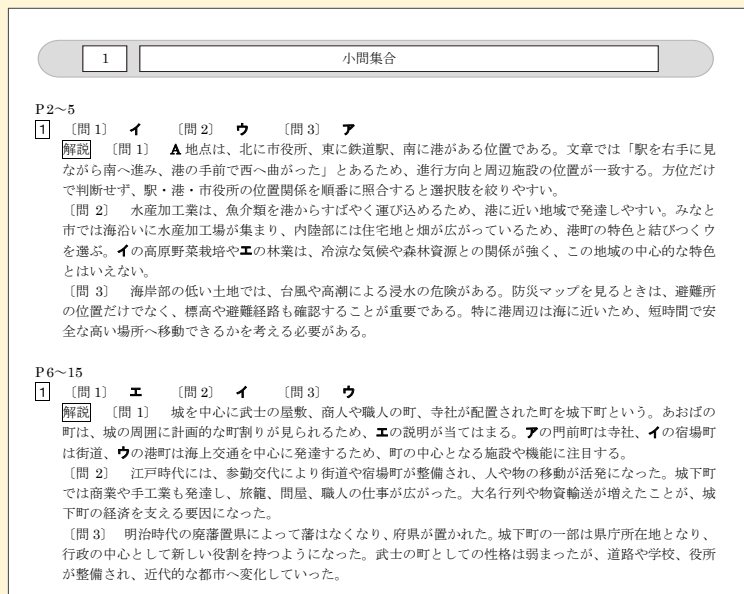
紙面教材として制作された問題集の解答解説を、HTML on Wordを用いてWEBコンテンツ化しました。

解答解説は、大問、小問、解答、解説といった構造がはっきりしています。Wordの段落スタイルや階層構造がHTML化後にどのように反映されるかを確認しやすい素材であるため、今回の検証に採用しました。

単純なHTML変換にとどまらず、以下のような調整により、紙面では一覧性やまとまりを重視していた構成を見直し、Web

では必要な情報にすばやくアクセスできる構造へと最適化しました。

- 大問単位でコンテンツをグループ化
 - 小問ごとにクリック／タップで解説を表示するアコーディオン形式を採用
 - ページ範囲ごとに切り替え可能なタブを設置
- 検索性・操作性を意識したUI設計を行うことで、閲覧しやすいWEBコンテンツとして再構成しています。



◀Wordで作成された解答解説。大問ごとに解答と解説がまとまっている構造です。



◀WEB版(解説を開いている状態)
単にHTML化しただけではなく、ブラウザ上での操作性、検索性を高めるための調整を行い、WEBコンテンツとして完成させています。

QRコードから、実際の画面や操作性をブラウザ上でご確認ください。

